

動物を癒す漢方

あかね動物病院 佐藤 始

近年、当病院に来院される飼い主の中に、漢方薬による治療を希望される方、もしくは興味があるという方が増えています。飼い主自身が漢方薬の使用経験があり効果を十分に理解されているか、より安全で生体に負担のない治療を望まれている方々です。私自身も犬の慢性疾患に漢方を処方して、ある程度の手ごたえを感じています。今回は、補剤を処方し、効果があった症例についてご紹介します。

補 中益気湯

アトピー性皮膚炎に対するエビデンスが人で認められていますが、犬にも同様の効果があるようです。痒みの発生直後や軽症例に対しては、補中益気湯とスキンケアでほぼ寛解に持ち込める症例を数例経験しています。慢性経過をたどった症例でも、減感作療法、インターフェロン療法などリンパ球のTh1、Th2バランスを整える治療と、補中益気湯の併用により、より良い効果を発揮しています。補中益気湯は人のデータでTh1、Th2バランスを整える効果が認められていることから、これらの治療法との相加的な効果があるのではないのでしょうか。

六 君子湯

蛋白漏出性腸炎は時々遭遇する炎症性腸疾患です。犬における治療はステロイド剤の内服、免疫抑制療法、食事療法が中心となります。この症例は初期にステロイド療法が効き、Alb(アルブミン)の濃度も安定していたのですが、病態が悪化しステロイドを増量しなければなりません。しかし増量すると肝酵素の上昇、免疫抑制状態による日和見感染が発現し、治療が行き詰りました。そこで六君子湯を投与してみたところ、状態が改善され、ステロイドも減量が可能となり、Alb濃度も有意に上昇、日和見感染、低Alb血症による腹水も改善しました。あきらめかけていた飼い主にはとても喜んでいただき、犬自身も生き生きとした表情を取り戻すことができました。

人 参養栄湯

「ドライフードが食べられない。口の中がとても乾燥しているんです。」という犬がいました。犬では非常にまれですが、シェーグレン症候群を疑い、ステロイド、免疫抑制療法を検討しましたが、飼い主が漢方治療を希望されたので、人で効果が確認されている人参養栄湯を処方しました。即効性はなかったものの、2週間後にはドライフードを食べられるようになり、顕著な唾液の分泌も確認でき、採食行動が正常になりました。

意 外に飲みやすかった！？

犬の嗅覚は人の約1万倍以上だといわれています。また肉食に近い雑食であることから、生薬は投与しづらい気がしていました。ところが私の心配をよそに、ドライフードに振りかけることで無理なく投薬が可能でした。体にあった漢方は受け入れやすいということかもしれません。知人の中国人獣医師は、猫に漢方は受けが悪いと言っていました。これには私も苦戦しています。真性肉食獣であるためなのでしょう。

犬 も癒されたい！

近年、ペットの飼育頭数が子供の数を超えたといわれるように、動物を飼われる方が増えています。愛くるしい表情やしぐさは日々の疲れを癒してくれることでしょう。しかし動物も我々人間のストレスを感じとったり、生活リズムの変化(夜型の生活)、異常な気象などから我々以上にストレスを感じています。動物も疲れているかもしれません。病気にだっとなりませぬ。動物に対する西洋医学、抗菌剤、ホルモン剤等は早期に効果が発現する素晴らしい治療です。一方、漢方は、免疫、気のバランスを整え、体本来のあるべき姿に戻してくれる治療法だと思います。この2つの治療を上手く補完していくことが、私たちが動物にできる癒し(治療)のように思えます。